

梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.49

2021(令和3)年4月号から始まった「梶田先生と振り返る思い出の一コマ」は、この4月号をもって終了となります。このコーナーでは「1954(昭和29)年東松山市誕生」から「2024(令和6)年市制施行70周年記念式典」までの市の思い出の一コマを振り返りました。読んでくれた皆さんが東松山市に少しでも愛着を持てただけならうれしいです。皆さん、今までご覧いただき、ありがとうございました。なお、掲載記事に添付している二次元コードを読み取ると、過去の掲載記事を見ることができます。ぜひご覧ください。

市では「未来を担う子どもたちに、もっと科学に興味を持ってもらいたい」という梶田先生の想いをカタチにするため、2016(平成28)年3月に基金を創設したよ。



創設した「ノーベル物理学賞受賞梶田隆章基金」は子どもたちの学習を支援するために活用されているよ。

「梶田先生と振り返る思い出の一コマ」の終了



市HP



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん



ミューちゃん



タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

門倉緑地係長

植物ZOO鑑

埼玉県こども動物自然公園

花だより

【穀雨】 たくさんの穀物を潤す雨が降るころ。恵みの雨。

盛りを迎えたサクラが散り始めるころ、ヤマブキが咲き始めます。枝先に重なる様が華やかであるため、平安時代から人気の花です。そんなヤマブキと言えば、「七重八重花は咲けども山吹の みのひとつだに なきぞかなしき」という和歌がありますが、元歌※は、「なきぞあやしき」で、江戸時代には「なきぞかなしき」で広まっていたといえます。動物園に来るまでヤマブキはすべて八重で実がつかないものだと思っていたところ、八重は品種で、原種は五弁の一重であり、実もつけると知りました。先に一重のヤマブキが花をつけ、その後八重が咲きます。なかよしコーナーの北側から牛舎にかけて、一重と八重が見られますので、探してみてくださいね。

こどもの城入口花壇のモッコウバラも、クリーム色で春らしい優美な花です。バラにしては、強健でトゲも無いため、とても扱いやすいです。名前のモッコウ(木香)は、花から香る良い香りが由来といわれています。

★ヤマブキ…バラ科ヤマブキ属の落葉性低木。日本原産で、枝がしなやかに風に揺れる様子、山振り(やまぶり)から名前がついたともいわれている。

★モッコウバラ…中国原産の常緑つる性低木。江戸時代には栽培されていた。

※後拾遺和歌集 兼明親王から。



5弁の一重ヤマブキ



華やかなヤエヤマブキ



モッコウバラ

※5月号は動物ZOO鑑です。

